

保護者各位

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。

今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

芦原小学校長 島田 充寿

令和元年度 芦原小学校学校評価書

元年度の集約

| 項目 | 具体的取組 | 評価者 | 目標指数(%) | 結果(%) | 成果と課題 | 改善策・向上策 | 学校関係者評価 | |
|-----------|--------------------------------------|--|---------|-------|-------|--|---|---|
| 確かな学力① | 授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。 | 日々教材研究や授業研究を熱心に行っている。 | 教職員 | 90 | 100 | 「伝え合い 学び合う」の研究テーマのもと、今年度は児童の目標指数を90%に引き上げ、全教職員が教材研究や授業研究を行った。目標には達しなかったものの、児童・保護者共に前年度よりも目標指数が上回った。昨年度に引き続き、ペア(トリオ)トークを取り入れた授業を多く展開し、友達と伝え合うことで学ぶ楽しさを感じた児童が多かった。次年度もこのような授業を取り入れていきたい。 | 電子黒板やタブレットなどのICT機器を効果的に活用して、児童の目標指数90%を目指す。また、異学年に伝えるという目標をもつことで児童の学習意欲が向上するので、学校全体の活動として学習したことを異学年に発表する機会を積極的に行う。 | 前年度よりも目標指数を上げて取り組んでもらっていることは評価できるし、授業の中で児童が学ぶ楽しさを感じることはとても良いことだと思う。刻一刻と社会が変化しているので、それに対応できる力を育む授業づくりに取り組んでいきたい。 |
| | | 授業が分かりやすく楽しいと思う。 | 児童 | 90 | 85 | | | |
| | | 日々の学習内容を理解していると思う。 | 保護者 | 80 | 90 | | | |
| 確かな学力② | 漢字・計算マスターテストを実施する。 | 漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。 | 教職員 | 90 | 92 | マスターテストは継続して行っており、今年度は児童の目標指数を90%に引き上げ、教職員・児童共に漢字の書き取りや計算に力を入れた。特に児童は自学ノートなどで熱心に学習し、マスターテストに向けての学習が身につけているので、今後も継続して行っていきたい。 | マスターテストは継続して実施する。児童に達成感を味わわせるために、問題数を減らす等、学年に応じた対応を教職員も工夫していく。再テスト時にも児童に目標をもって取り組ませることも児童の意欲につなげる。読書活動では、低学年のうちに家庭での読書習慣をつけていきたい。本との出会いを大切に、「楽しい」「読みたい」という実感を低学年のうちから児童にもたせていきたい。多読賞の表彰は、児童の本を読もうとする意欲につながっているため、今後も継続する。 | マスターテストを通して基礎を身につけることはとても大切なので、取り組みの継続を望む。また、保護者も学校任せにせず、子どもにもっと関心をもって、学習や社会性を養ってほしい。よく本を読むという量的な視点もあるが、感動の一冊に出会えるかということの方が大切だと思う。評価の観点もそのようにシフトしても良いのではないかと。 |
| | | 家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。 | 児童 | 90 | 85 | | | |
| | | 漢字や計算の力が身についていると思う。 | 保護者 | 80 | 82 | | | |
| | 読書活動を推進する。 | 読書活動の習慣化を図っている。 | 教職員 | 90 | 94 | 学校では朝の10分間で読書や読み聞かせ活動に週4回取り組み、また、毎月の家庭読書の日も実施し、児童は定期的な読書の機会をもっている。しかし、「よく」読書をしているという実感がもてずにいる。 | | |
| | | 学校や家庭でよく本を読んでいる。 | 児童 | 80 | 60 | | | |
| | | 学校や家庭でよく本を読んでいると思う。 | 保護者 | 80 | 40 | | | |
| 健康で安全な態度① | 生活スローガン「あいさつ」を実践できる児童の育成に努める。 | 清掃の指導・監督を徹底する。 | 教職員 | 90 | 100 | 教職員・児童・保護者それぞれ目標としている数値を超え、目標を達成することができた。特に児童はこの3年間で最も良い結果が出た。無言清掃が徹底されていることで掃除を一生懸命している実感を覚えている児童が多いことがこの結果につながったと考える。また各清掃場所の教職員がしっかりと指導を行っていることもこの結果につながっていると感じる。「おそうじがんばり賞」も児童の意欲向上につながっている。この「おそうじがんばり賞」によって保護者にも児童がどれだけ清掃をがんばったのかが伝わっていると思う。 | 中には落ち着いて清掃ができず、しゃべってしまう児童がいるが、「がんばり賞」を活用するなどして、より無言清掃を学校全体で徹底し集中して清掃できる児童を増やすことで、全ての児童に丁寧に掃除に取り組む心を育む。また、よりよい清掃ができるように、雑巾の使い方や掃除の仕方などを再度教職員から指導する。今後も児童数の減少が続くので、普段あまり使わない特別教室の清掃の仕方等を工夫する。 | 掃除をきちんとできることが心を整えることに繋がる。心が先か行動が先か判断が難しいが、静かに清掃できる環境は学校全体の落ち着きを生むので、引き続き取り組んでほしい。健康チェックカードを作成し、児童が自ら健康に関心をもち、教職員や保護者と意見交換できる姿を望みます。 |
| | | 協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。 | 児童 | 90 | 94 | | | |
| | | 清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。 | 保護者 | 80 | 92 | | | |
| 健康で安全な態度② | 業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。 | 業間の体育的活動や運動遊びの充実に努めている。 | 教職員 | 90 | 94 | 教職員・児童・保護者それぞれ目標の数値を超えており、この3年間で最もよい結果を得ることができた。業間マラソンや体力づくりを継続して実施した成果が出ていると考える。今後も引き続き実施していくことで、さらに体力の向上につなげることができると思う。業間マラソンは全校が一斉にマラソン大会に向かって努力し、また、マラソンカードを活用して目標を決めて取り組むことができていた。また、多くの保護者がマラソン大会を参観して下さることも、児童の意欲向上に大きく影響していると感じる。 | 業間マラソンは移動や汗等の後始末など時間的な負担が大きく、前後の授業に影響することもある。この取り組みを継続するためにも、授業への影響がないような実施方法を工夫する。マラソン大会前1ヵ月で毎週4回の業間マラソンを行っているが、実施期間を様々な行事との兼ね合いを考慮して設定する。また、普段の体育の授業から体力づくりを行っていくことで、さらに児童の記録が伸びるようにする。 | 体力づくりに対する児童の考えや意見を確認し、体育的行事を計画したり授業づくりを考えたりしてほしい。近年は5月でも真夏日になることがあるので、春のマラソンの練習時などで児童の体調管理に十分に気を配ってほしい。 |
| | | 校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。 | 児童 | 95 | 96 | | | |
| | | 体力づくりに意欲的に取り組んでいる。 | 保護者 | 80 | 86 | | | |
| 規範意識① | 集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。 | 元気ある挨拶や大きな返事をする指導をしている。 | 教職員 | 90 | 100 | 児童の目標指数を90%に引き上げたが、今年度も目標指数を達成することができ、昨年度の数値を上回ることもできた。クラスや委員会の児童が玄関に立って実施しているあいさつ運動が、良い意識付けになっている。しかし、学校外での挨拶ができない児童や声が小さい児童もいる。 | 委員会やクラスごとに玄関に立つあいさつ運動は、挨拶をする方、される方、どちらの立場も体験することで、挨拶の大切さをより考えることができている。来年度も、委員会を中心に引き続き取り組んでいく。また、挨拶の声が出ない児童に対しても、根気強く声をかけていく。 | 挨拶は日常生活でも大切なことなので、しっかりできていることは喜ばしいことと思う。集団行動に必要なルールを決めて、児童に根気強く指導してほしい。 |
| | | 進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。 | 児童 | 90 | 92 | | | |
| | | 基本的なマナーが身についていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶) | 保護者 | 80 | 94 | | | |
| 規範意識② | 当たり前だが、当たり前でできる児童の育成に努める。 | 学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる | 教職員 | 90 | 88 | 学校で決められている約束事が先生方に周知徹底されていない部分で、教職員の数値が下がっているように思われる。廊下を走っている子に注意をする児童が増えた、グラウンドに出る鍵は児童は開けない、など徹底されている約束事もある。 | 言われたこと(指導されたこと)は、きちんと守れるので、あいまいな事に関しては全校朝会や全校集会で一斉指導をしていく。一斉指導をすることで、児童も教職員も同じ話を聞き、統一見解で同じ指導をしていく。 | 児童の目標指数を上回ったのは良かった。今後も同様の指導をお願いしたい。また、児童・保護者・教職員で意見交換し共通理解のもと、約束事を決めて行動できるようにしてほしい。 |
| | | 学校で決められている約束事を守っている | 児童 | 80 | 96 | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------------------|---|---|--------------|-----|-----|---|--|--|
| 思いやりの心① | 異なる意見や考え方を尊重し、個を大切に指し導の充実に努める。 | 話し合い活動や発表活動を実施している。 | 教職員 | 80 | 81 | なかよしタイムを継続して行うことで、話し合う基礎がこつこつと身についてきている児童が増えている。毎週のなかよしタイムや縦割り班活動の時間、異学年交流をすることによって、互いに話し方や伝え方を学びよい機会となっている。他者と関わる楽しさや喜びを感じられる活動となっている。ふれあい集会や人権のブックトークを通して、学校全体で人権について考えることができた。 | 教職員は昨年に引き続きペアなどの話し合う授業に取り組んだが、なかよしタイムの活動パターンを授業にも取り入れることで、児童が慣れたパターンで活動に取り組めるようにする。 特別支援の理解を学校全体に呼び掛ける活動を計画に基づいて年間を通して行えるようにする。 | 集団生活の中ではお互いを理解することはとても大切なので、異なる学年で話し合ったり活動したりする機会を増やしてほしい。 |
| | | 様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。 | 児童 | 80 | 81 | | | |
| | | 一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指し導を行っている。 | 保護者 | 80 | 95 | | | |
| 思いやりの心② | 道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。 | 道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てている。 | 教職員 | 90 | 100 | 教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができた。道徳の時間だけでなく「なかよしタイム」や縦割り班活動を継続して行うことで、他者とのふれあいを楽しみ、思いやりをもって他者と接することができた児童が増えた。また、おたよりやアンケートも継続して配布することで保護者への理解も得ることができている。今後も継続して行いたい。 | 来年度も体験を通して「思いやりの心」や「感謝の心」が伝わるような機会を設ける。縦割り班活動が各学年にとって話し方や伝え方のいい学びの機会となっていたので、6年生への負担が増えないよう工夫しながら年間計画を立て継続して行っていく。 アンケート・教育相談・アンテナ会議・いじめ対策委員会を引き続き実施し、いじめの未然防止に努める。アンケートやおたより、生徒指し導の講話などからもいじめについて継続して配布し、粘り強く知らせていく | いじめの芽は早い段階で摘むことが大切なので、教職員のきめ細かな指し導を期待する。教職員の評価が100%であったことは良いことであるが、今後は児童や保護者の評価も100%に近づくことを願います。自分がされたり言われたりして嫌なことはほかの児童にしないということ粘り強く指し導し、安心して学校生活を送れるようにしてほしい。 |
| | | 思いやりや感謝の心が育っている。 | 児童 | 90 | 93 | | | |
| | | 思いやりや感謝の心が育っている。 | 保護者 | 80 | 94 | | | |
| | いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。 | いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。 | 教職員 | 100 | 100 | 「いじめ防止基本方針」を継続して毎年配布したり学校ホームページに記載したりしたので、いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいるという保護者の理解を得られた。 SSTを継続して行うことで、相手に対して気持ちを伝える活動が日常生活で生きてくると考えられるため、身につくよう粘り強く継続していく必要がある。 | | |
| | | いじめをなくすために、相手の気持ちを考えた言動ができた。 | 児童 | 90 | 89 | | | |
| | | 学校は、いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいると思う。 | 保護者 | 80 | 89 | | | |
| | | 「いじめ防止基本方針」を理解している。 | 保護者 | 70 | 74 | | | |
| 2学期制の施行 | 授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指し導を行う。 | 楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけるよう心がけている。 | 教職員 | 80 | 100 | 教職員、児童、保護者とも、目標指数を上回った。ペアワークやグループ活動を行うことは児童の学習意欲を高めることにつながったと思われる。また、算数でのTT指し導や支援員と協力して指し導にあたることで、個に応じた丁寧な指し導が実施できていると思われる。 | 長期休業の前後の学習に継続性をもたせ、課題の内容を工夫することで児童の意欲を高める。児童への事前指し導のなかで、長期休業中の基本的な生活習慣について見直しを行い、計画的に課題に取り組む時間を確保する。また保護者に課題の内容を十分に伝え、家庭での計画的な学習に協力を求めていく。休業中は学校で補充学習を実施しており、より積極的に課題に取り組む姿勢を育成していく。 個人懇談時に丁寧に説明をすることで、子ども達の学習や生活の様子を丁寧に保護者に伝えていく。そのために、資料等についても工夫を重ね、よりわかりやすく保護者に情報を伝えていく。また、ホームページの更新をできるだけ頻繁に行い、学校からの情報発信に努めていく。 | 長期休業中は家庭で指し導する機会が増えるので、休業前にどの部分に重点をおいて指し導すればよいかをまとめたプリントなどを配布してもらえるとありがたい。 長期休業中には児童の社会性を高められるように計画してほしい。休業中に取り組む活動への意欲を文章化し、他の児童に発表して意見を聞くなどの取り組みを行っても良いのではないかな。 |
| | | 先生は、楽しく分かりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。 | 児童 | 80 | 94 | | | |
| | | 分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいると思う。 | 保護者 | 80 | 89 | | | |
| | 児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。 | 日常の対話により児童の実態を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。 | 教職員 | 80 | 100 | 児童の満足度が、昨年度に比べ高くなり目標指数を上回った。教職員の意識と児童の満足度のずれが小さくなってきてはいるが、依然みられる。限られた時間の中で、一人ひとりの児童とコミュニケーションを図れるよう工夫していく必要がある。 | | |
| | | 先生と、学習や生活について話をする時間がある。 | 児童 | 80 | 84 | | | |
| | 事前指し導を丁寧にを行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。 | 長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。 | 教職員 | 80 | 88 | 昨年度に比べ児童の自己評価が下がったが、保護者の満足度は高くなり目標指数を上回った。これらのことから、計画的に取り組むことへの児童の意識が高くなっているものと考えられる。長期休業前に担任より児童に、学習の進め方について指し導をしており、意識の向上につながったと思われる。 | | |
| | | 夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。 | 児童 | 80 | 86 | | | |
| | | 夏休みの期間中は計画的に課題に取り組んでいる。 | 保護者 | 80 | 81 | | | |
| | 学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。 | 学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。 | 教職員 | 80 | 100 | 教職員、児童、保護者すべてで昨年度より向上した。面談だけでなく、日ごろから保護者へのこまめな連絡や児童への丁寧な声掛けに努めてきたことが、保護者の理解や児童の満足につながったものと思われる。 | | |
| | | 先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。 | 児童 | 80 | 90 | | | |
| | | 個人懇談や通知表により、子どもの様子について詳しく知ることができた。 | 保護者 | 80 | 94 | | | |
| | 開かれた学校 | 教育活動を積極的に公開する。 | 計画的に学校を公開する。 | 教職員 | 80 | 100 | | |
| 学校公開に多くの保護者が参加することができる。 | | | 保護者 | 80 | 77 | | | |
| 学校での子どもの様子や活動ぶりを知ることができる。 | | | 保護者 | 70 | 88 | | | |
| おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。 | | おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。 | 教職員 | 90 | 100 | 学校からの各種おたよりで児童の様子や学校からの連絡を定期的に発信してきたことにより、保護者の高い満足度が得られている。また、緊急時には、緊急メールにより学校の対応を保護者の方に迅速に伝えるよう今年度も努めてきた。ホームページの更新も毎月行っているが、児童の個人情報保護のため、学年だよりのアップについては今年度も実施していない。 | | |
| | | 保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。 | 保護者 | 90 | 91 | | | |